育成 モノづくり人材 Vol. 27

東京都立多摩工業高校

キャリア教育、人間力磨く

東京・西多摩地域で唯一の工業高校である東京都立多摩工業高校は、地域企業に必要とされるモノづくり人材を育成するために、キャリア教育の充実に力を入れている。学科は機械科と電気科のほか、環境分析やリサイクル、バイオテクノロジーなどを学ぶ環境化学科の3学科構成。環境化学科は都内で同校にしかない。4月に着任した早川信一校長は校風について「素直でまじめな生徒が多い。勉学に集中できる環境が整っている」と話す。

早川校長

地域企業が多摩工業高校に寄せる期待は大きい。同校から毎年のように生徒を採用している武州工業（東京都青梅市）の林英夫社長は「実直な人が多い。多摩工業高校は質の高いモノづくり人材を供給してくれる大切な存在」と強調する。

即戦力となる人材育成を期待する地域企業の声に応えるため、学校の実習と企業の実践的な就業訓練を組み合わせた教育システム「デュアルシステム」から生徒の派遣を始の実施に注力する。対め、これまでに累計で53人が46社で研さんを積んだ。卒業後には実習先の企業に就職することもできるため、デュアルシステムには地元の産業ニーズに合った人材を早期から発掘する狙いもある。

【DATA】▷校長＝早川信一氏▷所在地＝東京都福生市▷学科構成＝機械科、電気科、環境化学科▷総定員数＝525人▷主要設備＝大型レーザー加工機、マシニングセンター、ロボット実習装置、ペットボトルリサイクル装置など▷主な進路＝ホンダ、日野自動車、ファナック、東京理科大学、明星大学、トヨタ東京自動車大学校など

また早川校長は「企業のプロの技を身につけながら、実社会の空気を肌で感じることで、学校では経験しづらい社会人としての感覚を知ることもできる」とし、企業での就業訓練が人間力を磨くことを期待する。

将来は3次元CAD技術を生かせる職業に就きたいと目を輝かす機械科3年生の柳美沢（さわ）紗巴（さは）さんは「（生徒間には）何事にも団結して取り組む雰囲気がある」と話す。

旋盤加工の実習をする機械科3年の柳美沢さん。男子ばかりの学校で心配もあったが、友人に囲まれて楽しい学校生活を送っているという

早川校長は「学校生活を通じて技術者としてだけでなく、社会に出たときにいろいろなことにチャレンジできる人材になってもらいたい」と力を込める。多摩工業高校は技術力の向上に加えて、人間力といった総合力の育成に尽力している。

（西東京・尾内淳憲）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社